

市民みんなで手をたずさえて

広報はばたき

新発田青少年健全育成市民会議

毎年子ども達が楽しみにしている児童センター行事です

子どもまつり2010

『10月3日(日)サン・ビレッジしばた』
どのコーナーも行列ができるほど大盛況でした。



受付風景



スーパーボールすくい

鬼は外～！福は内～！

心の中にいる「泣き虫鬼」「いじわる鬼」「おこりんぼう鬼」を
追い払いました。

豆まき



パフォーマンス



『1月29日(土)児童センター』

マイケル・ジャクソンの曲に合わせて、ダンスやマジックを小学生マジシャンが披露してくれました。



青少年健全育成講演会 平成二十三年一月二十二日(土)

演題「子育ての今昔」

関川村長 平田 大六様



現代の子育て

かつて私も小・中学校や高校のPTAを経験したが、その頃お聞きした話に、「乳飲み子は肌を離すな、幼児は手を離すな、子どもは目を離すな、少年は心(気)を離すな」というのがある。私はこのことをしつかり胸に留めておいたが、後に、この教えは、「早く肌を、早く手を、早く目を、早く心(気)を、離せ」という意味なのではないかと解釈するようになった。

最近の私の村の保育園や小・中学校の様子を見ると、例えば、PTA会報の紙面には会

員の原稿より子どもの作文が多く載っているという傾向がある。

私の頃は、会員が原稿を引き受け、PTA研修会で学んだことや自分の子育てについて載せてもらったものだ。また、入学式(入園式)、卒業式(卒園式)、運動会などに両親がそろって参加するし、そのほとんどの人がビデオカメラを持参し、運動会では我が子を撮ろうとして来賓席の前に出て、トラックの中まで入り込む有様である。

スポーツ少年団の野球やバレーの試合の応援に行つて、負けて泣いているのは親の方という姿を何度か見ている。一方、子どもは冷めている。

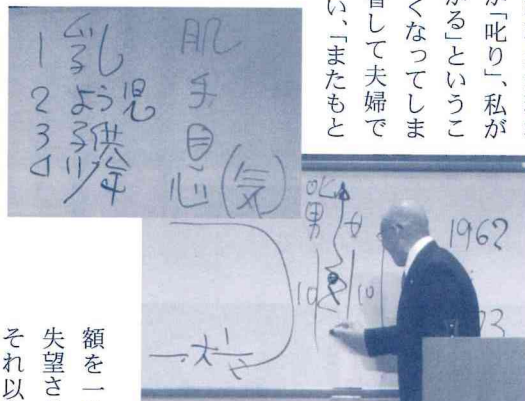
これらのことは「早く離せ」の教えとどうかかわるのだろうか。

私の子育て

私は一九三三年に生まれ、三六年には父が肺病で死んだので父を知らない。私には子が四人いる。私がどういう考え方で子育てに関わってきたのか話してみたい。

一 役割分担について

私は父を知らなかったため、男親と女親の役割分についてあまりよく解らなかつた。親が二人いたらどちらの言うことを聞けばいいのか子どもは迷うだろうと思ひ、色々と考えてみた。ある時妻に、「男親は何でもかんでも厳しくやる叱る」と、女親は何でもかんでも可愛がること」という話をして賛同を得た。しかし、時が経つと子どもとの間で逆転現象が現れた。妻が「叱り」、私が「可愛がる」ということが多くなつてしまひ、反省して夫婦で話し合ひ、「またもとにもど



つてやり直そう」ということになった。これが「原点に返る」ということだと思ふ。

「叱る」というのは口先で言うが心は冷静であるのでまだいいが、「怒る」はいけなひ。気持ち煮えくりかえつていて、言つてはならないことまで言つてしまふからだ。

二 学校のこと

「学校のことは学校任せ」というのが私の考えだ。そして教員のことは言わない。家に帰つたら親の責任だ。

我が子がテストの採点のことで私に訴えてきたことがある。私はその採点が間違つてゐることを一瞥見て分かつたが、「分からないから先生に聞いてみたら・・・」と言つて取り合ひなかつた。妻が「大学を出たあなたが分からなひはずはない」と言つて責めたが、私は一切応じなかつた。

長男が中学の剣道部に入つて、だいぶ力がつ

いたと思われる頃、「どれだけ上達したか試してやる」と言つて木刀を持つて向かい合つた。実は自分は剣道をやつたことはなく、「バチツ」と額を一撃され倒れ込み、長男を失望させたということがあつた。それ以来、子どもと同じ土俵にはあがらないことにした。

三 儉約のこと

ある時、人口の増減を表すグラフを見たら、自分が学生時代に研究した酵母菌の増殖グラフとよく似た曲線を示していることに気付いた。食べ物(餌)がいずれは不足し、激減し減びてし

まうところに注目した。だから子ども達には儉約を徹底させた。筆入れは壊れてもテープを何度貼つて修繕して使わせたし、アイスクャンディは一日一本と決めた。

娘が中学校に入つて、自転車通学となつて体の大きさに合つた自転車欲しいと言つていたが、サドルの高さを高くするだけで我慢させた。

小学校の先生に、「体育のユニフォームを修繕して使つてゐる子は何人いますか」と尋ねたら、「二人です」とのこと。それは私の子であることはすぐに分かつた。

子どもに我慢をさせることは、親が我慢をすることであり、それは容易ではないことだと知つた。

四 うまくいったのか

今振り返つて見ると「これはやりすぎだ」と思うこともあつた。

私は四人の子どもに同様に接してきたのではない。

一番上の子には丁寧な教え込み、あとは順次下の子へその教えを伝えていくようにしたが、これはいささかやりすぎたように思つてゐる。全部の子どもに同じように関わつた方がよかつたようだ。

講演を聴いて

根気よくあせらず

あきらめずに

田中 久美子

見守ることの大切さ

出村 満

平田様は「子育てでは、乳児期は肌をはなすな、幼児期は手をはなすな、子ども期は目をはなすな、少年期は心(気)をはなすな」という事を話されました。

ご自身の子育てでは、四人の子どもさんを男親の役目は厳しく女親の役目は優しく心を心がけ、特に子どもさん達には物を大切に、倏約する事を教えたという事です。壊れかけた筆入れをテープで補修して使わせた事、小さくなった自転車のサドルを上げて使わせた事など例を上げて話されました。

子どもにがまんさせることは、親ががまんすることであると強調されました。

平田様のユーモアあふれる楽しい講演から子育てでは、子どもをよく知り、根気よくあせらずあきらめずに親が努力することが大切である事を学ばせていただきました。私も微力ながら子ども達が健やかに育つ様にお手伝いさせていただきたいと思えます。

(新発田阿賀北地区保護司会東分区)

(中浦小PTA会長)

少年団体交歓会「わくわく台宿」

平成22年10月16日(土)〜17日(日)新潟県少年自然の家

少年団体の交歓会として十九年度より新潟県少年自然の家で開催し、二十二年度は十月十六日から十七日に、団体所属児童と一般参加児童五十三名、引率者二十七名で実施いたしました。少年団体は、子ども会連合会、緑の少年団、ボーイスカウト、健民少年団が参加した他、体験活動の少ない児童にも活動機会を提供していく趣旨で、団体未加入の児童にも参加を呼びかけています。

交歓会のまとめでは、自分の感じたことを寄せ書きにししました。いくつかを転記し、児童の思いをお伝えしたいと思います。

「サバイバルめししたきでアクシデントもあつたけど、みんなで食べたご飯は、最高に、楽しかったです。」

藤井しずか

「この2日間で楽しかったのは、サバメシを作ることです。地震があつても、おぼえていればだいじょうぶかもしれません。」

齋藤桜花

「大変だったけど、できあがつた時に食べたおいしかった。」

二瓶桃花

「私は野外すいはんが楽しかったです。きれいにご飯がたけ、そのご

飯はとてもおいしかったです。またみんなで自然の家にきたいです。」

星山李緒

サバイバルめししたきはアルミの空缶を利用してお釜とかまどを作り、1人前のご飯を炊きました。

空き缶工作や炊き方を失敗するとご飯が食べられなくなると、子ども達は苦労しながら真剣に取り組み、最後は自分で炊いた美味しいご飯が食べられました。

一人でやりとげたことで自信を持ったのではないのでしょうか。「キャンドルサービスの時、とてもきれいだつたネー！」

神田初音

「私はキャンドルの火がきれいだったです。また泊まりにきたいです。楽しかったです。」

勝見有紗

丸太を組んだロウソク台を囲み、全員がキャンドルのともし火を手手に、神聖な雰囲気です。火の尊さや危険性も子ども達に教えます。

「私はオリエンテーリングが、とても楽しかったです。2日間ありがとうございました！」

仲橋麻衣

「オリエンテーリングでクリをひるって、そのクリをサバメシに食べて食べた！」

五十嵐千乃

(健民少年団副団長 齋藤敏郎)

見て、ポイントの看板を森の中で探します。高学年の子が小さい子をいたわりながら、一生懸命に自然の中を歩き回りました。生き物や秋の木の実を見つけた事が感想に多く述べられています。

「みんなやさしかったです。楽しかったです。」

長谷川沙希

「また来るよー！とても楽しかったです。みな様ありがとうございました。」

小柴悠生

「新しい友達と色々な活動ができたので良かったです。」

小林幸揮

「いろいろな団体との交流会、たのしかったです。」

高山 華

「初めてお泊り、みんなで泊りすごく楽しかったよ！」

平野桃華

「わくわく台宿ですごくむずかしいことを学びました。」

丹後菜菜

「おばあちゃんに教えてもらったことが、ほんとうにできてよかったです。」

神田珠美

この児童は、おばあちゃんに何を教えてもらい、どんな実践をしたのでしょうか。このように家族から教えてもらった知識を発揮できる機会も大切だと思います。

団体の所属や学年を超えて人間関係を築く体験ができ、また、家庭以外で泊まる経験が少ない児童にとつて、大きく成長できた台宿だったと感じています。

平成22年度 青少年はぐくみ環境懇談会 青少年を健やかに育むためになすべきこと

主催 新発田青少年健全育成市民会議
日時 平成22年11月10日(水)午後2時

市民会議では、青少年を健やかに育むために、関係機関や企業との懇談を重ねて、情報の共有と活動の連携を図っています。

また、問題になりやすい現地を、関係者と一緒に視察・点検し問題点の改善や発生の未然防止に努めています。
今年度の懇談会での報告・発表の概要をお知らせします。

新潟県新発田地域振興局

児童相談所長 内山 正人様

当所では養護相談の五十%以上が児童虐待に関する相談であり、年々増加の傾向にある。県全体では八百五件、全国で見ると四万四千二百十九件と、過去最高を記録している。

このことから、国は緊急の提言をしている。その一は、虐待の通告を受けたら、必ず四八時間以内に当該児童の身体状況や事実関係を確認すること。その二は、家庭に返すことが適当でないとき、所長名で当該児童を保護することである。

また、法改正により一定の条件と手続きの下に親の同意が無くても、家に立ち入る臨検捜査ができるようになった。

当相談所でも、迅速かつ適切な対応に努めていきたいと考えている。

新発田警察署

生活安全課長 濱田 浩彦様

管内の犯罪発生件数は増加の傾向にある。特に万引きと自転車盗が非常に増加している。無施錠の自転車はもちろんであるが、工具を使って鍵を切断する例も見られる。

対策として毎月九日を「ロックの日」として、自転車の鍵かけの啓発と駐輪場の実態の把握に努めている。

また、痴漢や盗撮といった事案も管内で発生している。地域ボランティアによる青色パトカーによるパトロールや不審者情報

報を安心メール等で情報提供する等、未然防止に努めている。

啓発活動をしている時に、高校生に声をかけると、学生からも「頑張ってください。」等と元気な声が返って来ることが多い。素直な立派な若者がたくさんいることに期待感をもっている。

NTTドコモ新潟支店

主査 小林 大輔様

携帯でネットを利用することにより、学校サイトやブログなどでの誹謗中傷やいじめ、ストーカーや痴漢行為、チェンメル、ゲームサイトを通じた有害サイトへの誘導、高額料金請求などの問題が発生している。

学校や保護者、教師を対象に「携帯安全教室」等を開催したり、販売時には有害サイトへのフィードバックについて親御さんに説明して措置する等、安全かつ快適に使用するための環境を整備していくことも会社の社会的な責任と捉えている。

KDDI株式会社

au新潟支店

課長補佐 田村 恵美子様

平成二十二年六月から未成年契約の受付方法が変わり、新規

契約の場合は必ず保護者が同伴すること、フィルタリングの設定が義務化された。

内閣府の教育再生懇談会からの開発提言により、相手先限定機能やインターネット不可機能、子どもの位置情報通報機能など、様々な機能を持った機種が開発されている。

子どもの携帯電話の問題は、親の問題として受け止め、さらに企業・地域社会が一緒になって安全、安心して利用できるように取り組んでいくことが必要である。



市立本丸中学校

教諭 高橋 秀明様

ネットによる人間関係のトラブルから不登校になったり、ネット社会に夜遅くまで没頭し朝起きられない等の問題が発生している。プロフ・ブログは原則として禁止しているが、様々な問題に対応できないほどの状況になってきている。

本校では携帯を持たせない、やむを得ない場合はネットやメールについては制限をし、できるだけ通話機能だけにする、トラブルが生じたときは保護者の責任で解決し、自らの自覚の

とで行うことを指導の基本としている。

県立新発田農業高校

教諭 斎藤 英二様

携帯に関する大きなトラブルは聞いていない。また、ブログ等の開設には、学校としては一切関知していない。登校したら電源を切る、個人ロッカーへ入れ、教室へは持ち込まない等のルールを指導しているが、必ずしも十分に徹底しているわけではない。個人のポケットを調べるわけにもいかず、歯がゆい思いをすることもある。危機感を持つて対応していかなければならないと考えている。



「愛の一声」運動

丸山 正幸

新発田市より委嘱をうけている私達少年補導委員会では、青少年の健全育成を願って、日々市街地の巡回活動を行っております。

皆様もご承知の通り社会環境と人間関係の問題は多岐にわたり、各々の心に傷跡を残す問題、常識を逸し生命を脅かす事件、そしてそれらを模倣し連鎖的に発生する愉快犯的？事件、差し伸べてくる魔の手等、複雑化しております。そこで、子ども達がこのような問題に遭遇しないよう、「未然に対処すべく」実践と研修を重ねております。現場では見ず知らずの人が「声かけ」をするものですから「へんなおじさん」「へんなお婆さん」と怪しまれることも度々ですが、コミュニケーションを大切にし親子の絆を目指し「同じ目線」を念頭に「愛の一声」運動を行っております。

最近では外出している子ども達の姿は本当に少なくなりました。が市民の皆様からも子ども達に是非「愛の一声」で将来を応援いただければ幸いと願っております。

(少年補導委員会会長)

「自分で考える環境」

小林 大輔

子どもに自分で考える環境を作ってあげられる親でありたいと思っています。

子どもは、友達と遊ぶ時は何時に何処で何をして遊ぶか自分で決めてきます。でも親子で遊ぶ時、親は「鬼ごっこにしようよ」「縄とびしようか」それは危ないからやめようなどと言って子どもに決定権を与えずに、子どもの考えや行動の幅を縮めてしまいがちになってしまいます。

私と遊ぶと子どもは自然に自分で考えなくてもよい環境になってしまします。これでは子どもは成長できない？と思うようになりまし。考える事は子どもの成長にとっても大切な経験だ!!私は口を出しすぎてしまっていたんだと感じました。

どうしたら上手くいくか、楽しいか危なくないか子ども自身が決めて行動する事はとても大切に思っています。親はそのサポートでありたいです。子どもの独創的な考えをどんどん私も教えてもらいたいと思います。お父さん頭が固いよなんて将来言わないように……

(第一中学校区)

人と人とのかかわりを育てる地域活動

出会いから見つけたもの

渡辺 彩香

私は二人の男の子を育てながら、保育士をしています。今でこそ子育てを楽しめるようになりましたが、初めのうちは不安で一杯でした。

四年前に新発田に引っ越してきたのを機会に、「一人で悩まず、必ず出かけて誰かに会おう」と考えるようになりました。

最初に行った、いきいき館の親子プレールームの先生方との出会いは、一生、心に残る大切な出会いでした。

他にもいろいろな子育て関連施設に出かけ、同じような悩みを持つお母さんと相談し合ったり、一緒に出かけたりにして仲良しになりました。教育書などにはこだわらず、素敵な情報は参考に、やってみて良かったことはどんどん生かしてみる。そんなことの繰り返しで子育てを楽しむことや、自信に繋がったのだと思います。

子どもが大きくなっても悩みは尽きませんが、家族や友達、職場の方々に話すだけでも、心の中がすっきりして「明日からはこうしよう」と思えたりします。子育ては一人ではできません。周囲の方々に見守られてこそ、子どももお母さんも成長できるのだと思います。

(佐々木中学校区)

「子どもの成長のために」

遠藤 由香

子どもの成長は早く、昨日までは見られなかった心の動きや身体の成長を日々感じています。

そして、子どもを見ていると心と身体の成長は、どちらか一方が不足しても健やかな成長にはつながらないのだと考えさせられ、子どもとともに、私も日々学ぶ機会を与えてもらっています。

現在は、外に出て友達と身体を動かすことにより、ゲーム等を中心とした遊びの時間が増えているように思われます。

人と接すること、身体を動かしたときの気持ちよさを感じることができれば、もつと子ども達の世界は広がるのではないのでしょうか。

子ども達が外に目を向け、いろいろな経験を重ねることは大切です。その経験の中で心配ごとや困りごとに直面したとき、安心して相談できる場を整えてあげることが大人たちの役割であり、子どもの成長に一番大切なことと考え、日々子どもと関わっていきたくと思っています。

(加治川中学校区)



少年団体の主な活動事業

みんなで力を合わせて団体活動をしています。



～ スポーツ少年団 ～

5月15日(土) スポーツ少年団合同結団式(カルチャーセンター)
○少年少女スポーツ大会「8種目競技大会を年間通じて開催」
6月 バレーボール、ミニバスケットボール 8月 軟式野球、バドミントン
9月 柔道 11月 剣道 2月 サッカー(フットサル)
3月 バドミントン、柔道、空手道
4月・12月・3月に本部役員会議実施

～ 子ども会連合会 ～

6月27日(日) 第1回ジュニアリーダー交流会(長岡越後丘陵公園)
8月21日(土)～22日(日) 第2回ジュニアリーダー交流会(鷹の巣キャンプ場)
10月 3日(日) 子どもまつり2010(サン・ビレッジしばた)
11月16日(土)～17日(日) 少年団体「わくわく合宿」
(兼第3回ジュニアリーダー交流会×新潟県少年自然の家)
2月 6日(日) 第4回ジュニアリーダー交流会(住吉コミュニティセンター)

～ 健民少年団 ～

6月19日(土)～20日(日) 乙カヌーキャンプ(新潟県少年自然の家)
8月 6日(金)～ 8日(日) 全国健士連合交歓大会(愛知県安城市)
10月16日(土)～17日(日) わくわく合宿(新潟県少年自然の家)
12月 5日(日) お城清掃奉仕活動(新発田城)
12月19日(日) レクリエーションの集い(青少年健全育成センター)
1月29日(土)～30日(日) 冬季合宿(滝谷森林公園)
2月19日(土) スキー研修会(二ノノックススキー場)

～ ボーイスカウト新発田第1団 ～

(平成21年10月～平成22年9月行動実績)
ビーバースカウト8名(小2まで)、カブスカウト15名(小2～小5)、
ボーイスカウト20名(小5～中2)、ベンチャースカウト20名(中2～高3)、
リーダースカウト15名で行動しました。
春夏秋は赤谷キャンプ場、冬は二ノノックス、胎内スキー場をメインに活動。
赤い羽根共同募金、新発田城清掃、キャンプ、野外活動、
わくわく合宿、冬季合宿、他

～ 緑の少年団 ～

4月11日(日) 緑の募金街頭募金(ウオロク緑店、ピオ21)
5月 8日(土) 野鳥観察会(さえずりの里)
6月19日(土)～20日(日) 乙カヌーキャンプ(新潟県少年自然の家)
8月20日(金) 下越地区緑の少年団交流集会(胎内アウレックス館)
9月26日(日) 縄文時代の生活体験(黒川郷土文化伝承館)
10月16日(土)～17日(日) わくわく合宿(新潟県少年自然の家)
11月27日(土) クリスマスリース作り(松浦農村環境改善センター)
12月25日(土) ミニ門松づくり(加治川公民館)

平成22年度

各育成協議会等の活動

13地区の育成協議会等がそれぞれの地域特性を生かして特色のある活動をすすめています。先号に続き7地区の活動を報告します。

○東豊学区青少年育成協議会

- ・あいさつ運動の実施
- ・三代目ふれあい事業の実施
- ・クリーン作戦の協賛
- ・「自然とふれあう一日」事業の実施
- ・会報「すこやか」の発行

○川東地区自治連合会育成部

- ・あいさつ運動の実施
- ・生徒指導懇談会の開催
- ・小、中連絡会
- ・「休みを楽しく有意義に」の発行
- ・子育て活動(地域クリーン作戦、心すこやか講座)

○七葉中学校区すこやか育成会

- ・講演会の開催
- ・交流活動
- ・グラウンドゴルフ、餅つき大会(菅谷小)、ウォークラリー(七葉小)
- ・地域美化活動
- ・国道の花の苗植え活動(七葉中、七葉小)
- ・プランター花の寄贈(菅谷小)
- ・防犯パトロールの実施

○さわやか佐々木っ子育成会

- ・佐々木盆踊り
- ・親子ふれあい事業
- ・親子レクリエーション(餅つき大会)
- ・講演会の開催

○豊浦地区青少年健全育成協議会

- ・地域パトロールの実施
- ・地域交流活動
- ・6年生の1日体験入学
- ・地区芸能祭キャンペーン活動
- ・広報「とよら」の発行

○紫雲寺地区青少年健全育成協議会

- ・れんぎょうパトロール隊による防犯パトロールの実施
- ・「わが家、わが地域の元気っ子」写真コンクール
- ・第18回教育振興大会
- ・教育講演会の実施
- ・広報「おもいやり」の発行

○加治川地区青少年健全育成協議会

- ・講演会の実施
- ・地域との関わりを深める支援活動
- ・パトロール活動等の推進
- ・広報紙の発行
- ・地区啓発活動の実施

お知らせ

健全育成市民会議の活動を広く知っていただくためにホームページの充実に努めています。「新発田青少年健全育成市民会議」で検索して下さい。ご意見をお待ちしています。

市民会議の理事として、また編集委員として、ご活躍くださいました青山房子氏が昨年十一月急逝されました。ご冥福をお祈りいたします。

おわびと訂正

平成二十二年十月号の記事の中で、副会長田村光雄氏の「心を育てる試み」の中で、「豊浦地区で青少年健全育成活動に関わって以来一年」とあるのは豊浦地区で青少年健全育成活動に関わって以来十四年の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

編集委員

佐藤 靖雄 関川 直
猿子 洋司 渡辺 富子
金田 緑

発行 新発田青少年健全育成市民会議
事務局 新発田市青少年健全育成センター
住所 新発田市緑町二丁目六番三十六号
電話 (〇二五四)二六八〇八九七